

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和06年09月05日

計画の名称	第3期厳原城下町地区都市再生整備計画												
計画の期間	令和02年度 ~ 令和03年度 (2年間)										重点配分対象の該当		
交付対象	対馬市												
計画の目標	「市民・観光客の交流拠点」としての中心市街地の再生及び安心な街づくり ・市民の快適な暮らしの醸成 ・高質空間を形成し観光客の回遊を誘導する。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	394	A	394	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H26		R3
1	・市民や観光客が厳原城下町地区の生活空間の安心感・快適性の不満度を事前と事後をアンケート調査により比較し88%を(H26)をR3に60%に引き下げる。 市街地の安心感・快適性の不満度をアンケート調査により実施する。	88%	%	60%
2	・市民や観光客が厳原城下町地区の景観・歴史文化史跡の状況の不満度を事前と事後をアンケート調査により比較し80%を(H26)をR3に60%に引き下げる。 市街地の景観・歴史文化史跡整備の不満度をアンケート調査により実施する。	80%	%	60%
3	・横町線を中心とし、往来する歩行者数を調査し、回遊性の向上を検証し、従前の648人(H26)をR3までに900人に引き上げる。 横町線等を通過する歩行者数を調査する。	648人/日	人/日	900人/日
4	・観光客の交流拠点として対馬市の歴史文化に触れ、また学ぶことによる交流人口の増加を図る。 博物館の来館者数を調査する。	80600人/年	人/年	83600人/年
5	・博物館を整備することにより、その周辺の公共施設(観光情報館ふれあい処つしま)の利用人数の増加を図る。 観光情報館ふれあい処つしまの利用者数を調査する。	13970人/年	人/年	15000人/年

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
整備計画期間H27~R3(7カ年)の内、R2~R3(2カ年)の整備計画分基幹事業並びに提案事業の事業期間の変更														

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制 対馬市まちづくり活性化推進協議会	事後評価の実施時期 令和4年2月25日
	公表の方法 インターネット
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	道路整備による回遊性向上と歴史的資源の整備による一体的な雰囲気づくりが進んだことによりまちなか利用機会が増加しにぎわいが創出されつつある。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
ハード面、ソフト面の両方から市民が安全に安心して生活できる社会基盤の整備推進する。	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	最終目標値	60%	都市計画道路の整備により市街地の安心感・快適性の不満度の解消につながった。
	最終実績値	39%	
2	最終目標値	60%	歴史文化史跡の整備により市街地の景観改善や市街地の歴史的な雰囲気づくりが図られ不満度の低下につながった。
	最終実績値	28%	
3	最終目標値	900人/日	道路整備により町中の回遊性が向上したものの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う人の移動制限や自粛が要因となり目標達成にはいたらなかった。
	最終実績値	280人/日	
4	最終目標値	83600人/年	中心市街地の利用環境が改善され周辺施設の利用者数と同様に来館者数が達成できた。
	最終実績値	110000人/年	
5	最終目標値	15000人/年	町中の利用環境が改善され施設利用者数も年々増加傾向であったが新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う人の移動制限や自粛が要因となり目標には及ばなかった。
	最終実績値	11000人/年	